

早川石切工場群の概要

- ・所在地 小田原市早川地先
- ・調査面積 3260.4㎡
- ・調査期間 一次：2005年9月20日～11月30日
二次：2006年2月1日～3月15日
- ・調査目的 広域農道整備事業に伴う事前の発掘調査
- ・調査機関 財団法人かながわ考古学財団
- ・調査担当 三瓶裕司・依田亮一・新開基史
- ・発見遺構 石切工場（調査区分では27箇所）、道状遺構1箇所

石切工場

・工場とはそもそも工事現場などの作業場をさす言いかたです。石切工場とは、石を城の石垣に使える形にまで切り出して加工する作業場ということになります。

石を切り出した場所、形を整えた場所、運び出すまで保管しておいた場所など色々な状態でいくつもの工場が見つかりました。

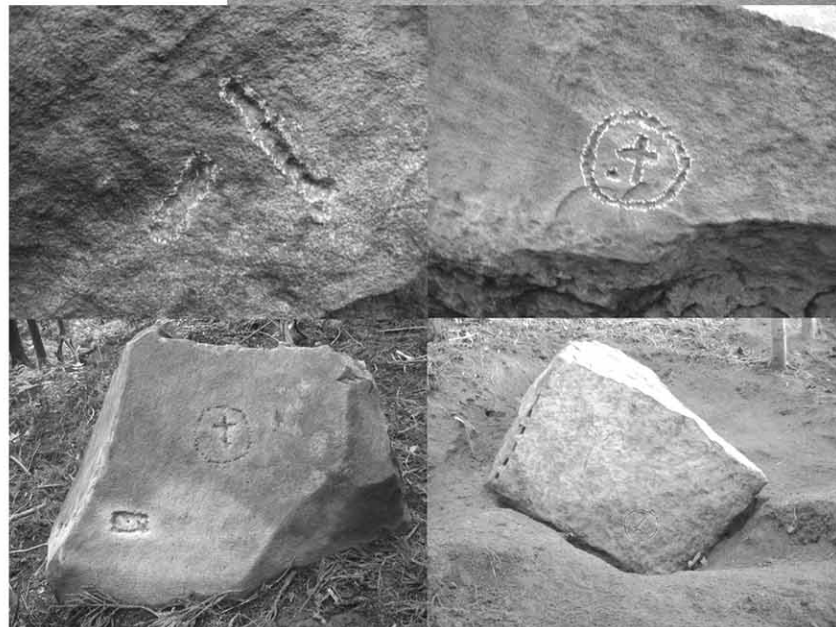


刻印

・各石切工場で、占有や所有関係などを示すために、石に彫り込まれた記号をいいます。

・この「此左一」と文字が刻まれた切石は、これだけでは意味がわかりません。

おそらく何らかの理由で文字を刻む作業を途中で止めたものと思われます。「この左」の後にはなんと書こうとしていたのでしょうか？



・これらの「八」や〇に「十」、〇に「寸」という刻印は、同種の刻印がまとまって分布する傾向が見られました。

道状遺構

・調査範囲の西側からは道状遺構が見つかりました。山の斜面を斜めに溝を掘り、傾斜の緩い道路につくりあげています。

道路面にはさらに2本の溝が掘りくぼめられており、その溝の中には、小石や切石を割ったときに出た、細かな石くずを敷き詰めていた様子がみられました。

これは荷車の重さによって、わだちが刻まれにくくするための舗装ではないかと考えられます。

こういった舗装された道状遺構は、北陸の金沢城を築いたときに開発された戸室山の石切工場附近でも見つかりました。

また、江戸時代の絵図にも石引図として描かれている道の構造がとても似ていることから、この道状遺構が切石を山から引きずり下ろす「石引道」である可能性が考えられます。

